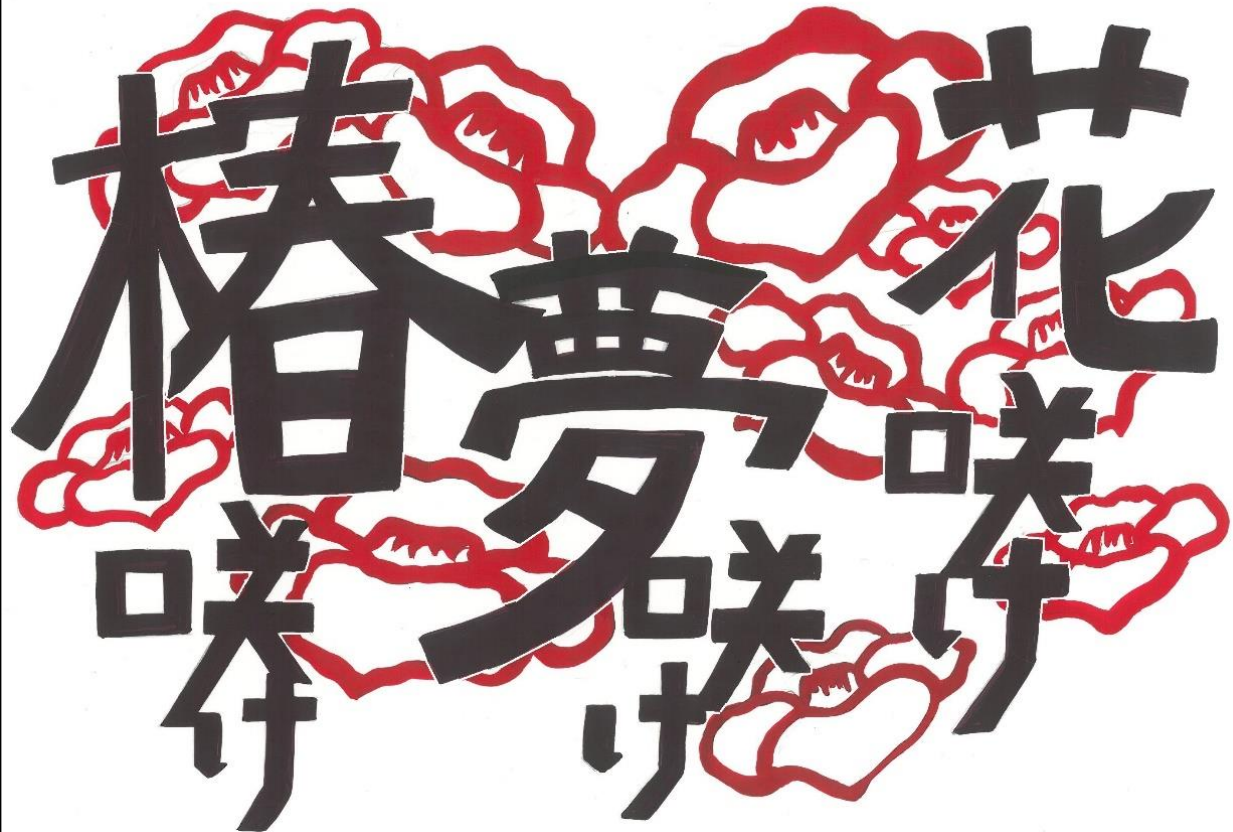


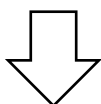
令和5年度 椿中学校学校評価報告書



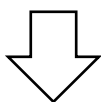
- 1 学校評価の説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 令和5年度 学校評価(第1回、第2回)の結果表・・・・ P 2、3
- 3 令和5年度 学校評価 (1学期と2学期) の結果分析・・ P 4、5

1 学校評価等について

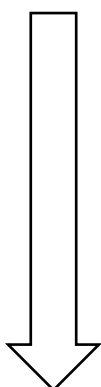
- 昨年度の評価項目を再検討



- 1、2学期末に生徒、保護者、教職員にそれぞれアンケート調査を実施



- 調査結果を集計、分析



[有効回答率]

令和5年7月に実施			令和5年11月に実施		
回答率	保護者	生徒	回答率	保護者	生徒
1年生	71.9%	90.1%	1年生	80.3%	88.7%
2年生	71.8%	87.0%	2年生	85.2%	90.3%
3年生	68.4%	83.7%	3年生	72.8%	81.6%
全校	70.7%	86.9%	全校	79.6%	86.9%

※ 肯定率…アンケート項目の回答を「4：とても思う（あてはまる）、3：やや思う（あてはまる）、2：あまり思わない（あてはまらない）、1：全く思わない（あてはまらない）」の4段階評価にして、集計で「4」と「3」の回答率をまとめたものである。

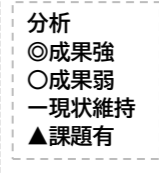
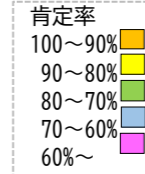
※ 平均…各アンケート項目の有効回答数の平均値のことである。

- 職員会議で分析結果を報告
- 学校評価委員会で報告→御指導、御助言をいただく。
- 職員会議で分析結果を周知
- 市教委、保護者等に報告

令和5年度 学校評価(第1回、第2回)の結果表

【評定】 4：とても思う(あてはまる) 3：やや思う(あてはまる) 2：あまり思わない(あてはまらない) 1：全く思わない(あてはまらない) 0：分からない(保護者アンケートのみ)

【総合判定】 A：肯定率の平均が90%以上 B：肯定率の平均が60%以上90%未満 C：肯定率の平均が60%未満



評価領域	評価指標	番号	評価項目(保護者)					評価項目(生徒)					評価指標(教職員)						
			肯定率	肯定率	平均	平均	留意点	肯定率	肯定率	平均	平均	留意点	肯定率	肯定率	平均	平均	留意点		
教育課程 学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	3	78%	74%	3.0	2.8	▲1	3	80%	79%	3.0	2.9	▲1	1	100%	100%	3.2	3.2	▲1
		4	73%	71%	2.9	2.7	▲2	4	81%	80%	3.1	3.0	▲2	29	91%	97%	3.2	3.2	
	学校は、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICT機器を活用している。	5	82%	84%	3.1	3.1	○1	5	82%	83%	3.1	3.1	○1	2	87%	97%	3.1	3.2	
		6	86%	87%	3.2	3.1	—	6	90%	88%	3.3	3.2	▲3	3	84%	90%	3.1	3.1	
人権・同和 教育・ 生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	7	80%	78%	3.0	2.9	▲4	7	84%	80%	3.2	3.0	▲4	7	100%	100%	3.3	3.3	
		8	81%	83%	3.0	3.0	—	8	90%	93%	3.3	3.2	—	8	94%	97%	3.2	3.2	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	9						9	93%	90%	3.3	3.3	—	36	97%	97%	3.2	3.1	
		10						10						4	94%	93%	3.3	3.3	
キャリア 教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	9	80%	76%	3.0	2.9	▲5	10	91%	89%	3.3	3.2	—	5	97%	93%	3.4	3.4	
		10	90%	89%	3.2	3.1	—	11	94%	90%	3.4	3.2	—	6	100%	100%	3.3	3.2	
	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	11						12	89%	90%	3.3	3.2	—	32	94%	97%	3.4	3.4	
		12	89%	92%	3.2	3.2	—	13	89%	90%	3.3	3.2	—	33	100%	97%	3.4	3.4	
安全管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	13	80%	78%	3.0	2.9	▲6	14	85%	80%	3.1	3.0	▲6	34	100%	100%	3.5	3.6	
		14	82%	80%	3.1	3.0	—	15						9	97%	93%	3.2	3.1	
特別支援 教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	15												35	100%	97%	3.3	3.2	
		16												10	100%	100%	3.4	3.2	
組織 運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	17												11	100%	97%	3.4	3.1	
		18												12	100%	100%	3.5	3.3	

令和5年度 学校評価(第1回、第2回)の結果表

【評定】 4：とても思う(あてはまる) 3：やや思う(あてはまる) 2：あまり思わない(あてはまらない) 1：全く思わない(あてはまらない) 0：分からない(保護者アンケートのみ)

【総合判定】 A：肯定率の平均が90%以上 B：肯定率の平均が60%以上90%未満 C：肯定率の平均が60%未満

肯定率 100~90% 90~80% 80~70% 70~60% 60%~	分析 ◎成果強 ○成果弱 一現状維持 ▲課題有	■ 数値上昇 ■ 数値低下
--	-------------------------------------	------------------

評価領域	評価指標	番号	評価項目(保護者)					評価項目(生徒)					評価指標(教職員)					
			第1回	第2回	平均	平均	留意点	第1回	第2回	平均	平均	留意点	第1回	第2回	平均	平均	留意点	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいる。	14	79%	82%	3.0	3.0	—	14	87%	91%	3.2	3.2	—	16	94%	100%	3.3	3.2
	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいる。																	
保護者・地域との連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	15	81%	81%	3.0	3.0	—							17	94%	97%	3.3	3.1
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、メール等により、積極的に情報を発信している。	16	90%	91%	3.3	3.3	○2	15	92%	95%	3.4	3.4	○2	18	100%	100%	3.7	3.7
教育環境	学校は、言語活動の充実及び掲示の工夫等の環境整備に努めている。	17	94%	93%	3.3	3.3	—	16	90%	89%	3.3	3.1	—	19	94%	97%	3.1	3.3
	学校は、言語活動の充実及び掲示の工夫等の環境整備に努めている。													37	97%	97%		
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	18	76%	81%	3.0	3.0	◎1	17	72%	58%	2.9	2.6	▲7	20	97%	97%	3.2	3.2
	学校は、教育の質の向上のために関係園・校で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っている。													21				
	学校は、関係園・校で連携し、児童生徒に対する教職員の理解や、児童生徒の相互理解の促進を図っている。													22	94%	93%	3.2	3.1
	お子さんは、学校生活などに満足していますか。	19	85%	82%	3.1	3.1	—	18	85%	87%	3.2	3.2	—	23	97%	93%	3.2	3.1
	お子さんは、学校生活などについて家でよく話をしますか。	20	78%	77%	3.1	3.1	▲8	19	76%	70%	3.0	3.0	▲8	24	100%	100%	3.5	3.3
	学校・学年便りやホームページをよく見ますか。	21	74%	75%	3.0	3.0	○3	20	67%	52%	2.8	2.5	▲9	25	94%	97%	3.4	3.3
	参観日や学校行事の際には、よく参加して子どもや学校の様子を伺っていますか。	22	79%	72%	3.1	2.9	—	21	53%	53%	2.5	2.6	▲10	26	100%	97%	3.5	3.3
	学校は、学校の教育目標である「花咲け 夢咲け 椿咲け」の下に、様々な教育活動に取り組んでいると思いますか。	1	87%	88%	3.2	3.1	◎2	1	79%	78%	2.9	2.9	—	27	100%	100%	3.4	3.4
	学校は、ひとりひとりに「自信と誇り」を持たせ、将来にわたって誇れる学校づくりを行っていると思いますか。	2	81%	79%	3.0	2.9	▲11	2	77%	73%	2.9	2.8	▲11	28	100%	100%	3.4	3.4
														38	81%	83%	3.1	3.1

令和5年度 学校評価（1学期と2学期）の結果分析

別紙「令和5年度 学校評価(第1回、第2回)の結果表」を基に分析を行い、以下のようにまとめた。

- (1) 全体的に教職員の肯定率はおおむね90%を超えているが、生徒評価と保護者評価はそこまでには至っていない。また、平均値の差についても分析に活用した。
それら結果の差を真摯に受け止め、以下の項目に留意して、改善すべきものとする。

- ※ ◎…第1回と第2回の肯定率や平均値で顕著に増加がみられたもの
○…第1回と第2回の肯定率や平均値で増加がみられたもの
▲…第1回と第2回の肯定率と平均値が両方減少した項目
数字については、表内項目と対応するようにナンバリングをしたもの

- ① ICT等を積極的に活用した、分かる楽しい授業づくり(▲1、▲2、○1)
教職員は、分かる楽しい授業づくりを目指して努力している。しかし、生徒や保護者の期待に応えるまでには至っておらず、教職員の意識改革と更なる研修が必要である。
また、教職員へのICT活用の研修により活用率が高まった。しかし、生徒や保護者のニーズを把握し、より効果的にICTを活用できるような教職員間の情報共有と更なる研修が必要である。
- ② 更なる生徒主体の学校行事と生徒会活動の推進(▲3)
教職員は、生徒の学力や体力に関する情報を適切に把握し、指導計画と日々の実践を積み重ねることができた。しかし、昨年度からの感染症拡大防止に配慮した活動になったこともあり、来年度の活動の更なる活性化が生徒から期待されている。
- ③ 更なる道徳教育と人権・同和教育の推進(▲4)
生徒一人一人に丁寧に対応し、温かみのある学級、学年、学校づくりに努めているが、更なる道徳教育と人権・同和教育の推進が必要である。
- ④ キャリア教育(進路指導)の見える化(▲5、◎2)
生徒一人一人の特性を理解し、将来を見据えた進路指導やキャリア教育を推進できた。しかし、生徒や保護者に対する本校の進路指導やキャリア教育の更なる見える化が必要である。
- ⑤ 特別支援教育の視点も配慮した個性や特徴の尊重(▲6)
生徒一人一人に丁寧に対応し、温かみのある学級、学年、学校づくりに努めてきた。更なる特別支援教育の視点に配慮した個性や特徴の尊重を図る指導の推進が必要である。
- ⑥ 小中連携の推進、小中学生の交流(◎1、▲7)
教育の質の向上のために関係校で教育課程や学校行事などで連携し、相互の学校の特徴を教職員で共通理解を図って教育活動を展開することができた。しかし、そのことが生徒に理解できるまでには至っていない。学校行事等で地域の小学生と交流できる場面の設定を視野にいれて今後検討する必要がある。

⑦ ホームページ等による積極的情報発信と閲覧の啓発（○2、○3、▲10）
学校・学年便り、ホームページなどで、学校の情報を継続的に発信することができた。しかし、生徒の興味・関心を高めるようなものにまでは至っていない。更なる内容の精選や周知を図る必要がある。また、生徒がホームページをみる習慣化を図ることも必要である。

⑧ 生徒が様々なことを相談しやすい学校や教員の雰囲気づくり（▲8、▲9）
生徒に分かる授業づくりや様々な教育課題への対応のため、外部講師や地域の人・ものを積極的に教育活動に取り入れ、社会に開かれた教育課程の実践に努めた。しかし、生徒の信頼度を高められるような教師集団を更に目指すべきである。

⑨ 自己肯定感や自己効力感を育む活動の推進とレジリエンス（回復力）を培う活動の推進（▲11）
学校行事等で教育活動の充実に向けて地域や保護者とよく連携・協力することができた。更に教職員間で情報共有し、生徒に対する教職員の理解や生徒の相互理解の促進に努めることが必要である。

(2) 保護者の文言、生徒の文言から

前述の(1)のデータ分析結果とリンクする内容がほとんどで、どのコメントも貴重な意見として真摯に学校運営に反映していけるようにしたい。

① 保護者の文言

好意的意見、提案・要望の意見、改善を望む意見の3種類に分類した。

ア 好意的意見…今後の教育活動の励みにした。

イ 提案・要望の意見…来年度の教育課程や学校行事を進めていく上で積極的に取り入れる検討をした。

ウ 改善を望む意見…個人、集団、全体に関するもので分類し、職員会議で情報共有して、真摯に受け止め、各立場で改善を図るように話し合った。

② 生徒の文言

ア 前向きな意見…今後生徒会目標や委員会目標等で活用する。

イ 要望に意見…生徒会を通して委員会活動や生徒協議会等で審議できるようにする。